



※学校だよりのタイトル『羽ばたく』は、甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた、舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」になって欲しいとの願いをこめてタイトルとしました。

## 今できる「あゆみ」を一步ずつ

コロナウイルス感染者が少なくなったとはいえ、本校では、4月から月に一度は「陽性者発生メール」を发出するなど、依然コロナ禍は続いています。以前とは異なり、しっかりとした対応をすることで未然防止になることも明らかになってきています。それでも罹患すると非常に子ども達の心と体に大きな負担となることも事実ですので、コロナウイルスを甘く見ず、楽観視せず、与えられた条件の中、対策を万全にして、教育のあゆみを止めないよう取り組んでいきたいと思ひます。

### 感染防止と熱中症事故防止の両立

学校生活ではマスク着用が原則です。ただし一昨年度から、担任の指導のもとであれば「図書や書写など飛沫感染のリスクが少ない環境では、状況に応じてマスクを外してもよい。」こと、反対に「心配でマスクを外したくない場合は、熱中症に気をつけながら無理して外さなくてもよい。」こと、また「登下校中は特に熱中症のリスクが高いので、息苦しい等、必要に応じて、お喋りをしないでマスクを外してもよい。」ことなどを子ども達に伝えてきました。今年度も夏を迎えるに当たり、職員間で改めて確認し、子ども達の発達に応じて指導しました。最終的には、TPOに応じた正しいマスクの使用が出来る力を付けて欲しいと思ひます。



また、コロナ対応も必要ですが、これからの時期は熱中症対策も必要です。これも昨年度と同様ですが、本校では養護教諭が、休み時間には熱中症計で「指数」を測定しています。「活動中止」ゾーンでは「外遊び中止」、「嚴重警戒」ゾーンでは外遊びの時間の短縮と途中にマスクを外して体を休める時間をとる、という対応を、その日の指数に応じて放送で指導しています。

今年も「暑すぎる夏」が想定できるので、「こまめな水分補給のための水筒・日射から頭部を守る帽子・流れた汗をぬぐうタオル」を忘れず持たせて下さい。また、免疫力を維持するためにも「はやね・はやおき・朝ごはん・トイレ」を忘れずお願いします。梅雨とはいえども夏日もあり、これから本格的な夏を迎えます。感染のリスクを避けつつ熱中症事故防止に取り組んでいきたいと思ひます。

### 縦割り班活動「チャレンジ集会」

昔は住んでいる地域に中学生がいて、遊びを通して上下関係や下の子の面倒をみることを学びましたが、放課後遊ぶ時間も場所も制限されているため、異学年での交流を意図的・計画的に学校教育に取り込んでいく必要があります。今年度も児童会活動の一つとして全学年を異学年で分けて構成された縦割り班での活動を計画しています。

この日は、チャレンジ集会に向けて、縦割り班の教室に分かれた後、6年生が低学年の子ども達と一緒に、ポスターやルール説明用の掲示をつくりました。その後は、学年のプラカードを下げた6年生が、受付は1年生、呼び込みは3年生、説明は5年生等と各学年の役割分担を伝えた後、お店のデモンストレーションをしました。人の流れを想定しながら実施に向けて、教室をどの様に使ったら良いか、機材をどこに置いたら良いかみんなで考えていました。

チャレンジ集会では、子ども達がペアになって接待する側、お客さん側に分かれて、様々なブースで楽しませたり楽しんだりしました。企画・運営を行った児童会の皆さんの努力のおかげで、子ども達全員が楽しみ、互いに思い遣る心を育み、絆を深めた会となりました。素敵な時間をありがとう！



## 高学年の仕事「委員会活動」

委員会活動は、特別活動の中で趣が少し違って、5年生以上の子どもの「仕事」としての意味があります。学校がスムーズに動くためには、高学年の子ども達の力が必要で、仕事内容もある程度は決められています。

そのような中でも可能な限り子ども達の自主的・自発的な活動となるよう、話し合いを行い、より良い学校生活のためにできる活動はないか、考えたり話し合ったりしていました。飼育栽培委員会は、ウサギ小屋の掃除やプランターの点検を行っていました。保健委員会は、給食の前に流す「手洗いの歌」に合わせて全校の友達の手指が綺麗に洗えるようにと6年生が下級生に指導していました。図書委員会は、どの様にしたら沢山本を読んでもくれるのか、良い企画はないか考えていました。体育委員会は、学級に貸し出していたボールなど在庫数を確認したり破損はないか点検したりしてました。

少しずつですが、子ども達の「学び舎」である舞鶴小学校の姿が戻ってきたように思います。



## P T A 会費集金へのご協力をありがとうございました

今年度から給食費が公会計化となり、学納金は代理収納されることになりましたが、P T A 会費等は該当しないため、今年度は24日からの3日間に手集金させていただくことになりました。子ども達に現金を持たせて登校させることは難しいので、保護者の皆様においでいただきました。おかげさまで、無事集金することが出来ました。お忙しい中、お手数をおかけしましたが、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。



## 子ども達の体力は？「体力測定」

コロナ禍のためなかなか運動をする機会が少なくなっていますが、学年ごとに体力測定が行われ、子ども達は全力で投げたり走ったりしていました。特にボール投げは、子ども達にとって生活の中での経験が少なく、体の使い方やコツが必要です。ご家庭で公園などに行くとき、一つ柔らかいボールを持ってキャッチボールをされてはいかがでしょうか。



## 東日本大震災から11年

東日本大震災から11年が経ちましたが、当時のことを思い返しても、想定外の出来事は深く心に刻みつけられています。当時の教訓を生かし、甲府市では「震度5弱以上」であった場合、街が正常に機能していても、原則子ども達の引き渡しを行うこととなりました。

当日は、まず地震を想定しての「避難訓練」を行いました。2回目ということで、どの子も真剣に避難を開始し、前回は30秒以上上回る速さで安全に避難することが出来ました。引き渡し訓練では、カードを使って確実に保護者に引き渡すことが出来ました。学校にいる間は避難場所があるので良いのですが、登下校時に地震が来たら、どこに避難するか帰りながら確認して下さるようお願いしました。子ども達には、「危ないを予想する」「危ないから離れる」を習慣化し、自らの命を守る力を付けて欲しいと思います。



## 高野美紀子先生より本の寄贈

学校医である内科の高野美紀子先生より、子ども達へと言って「もふもふライリーとちいさなエリザベス・おいでアラスカ」という2冊の本を図書室に寄贈していただきました。「おいでアラスカ」は夏休みの課題図書にもなっているそうです。先生からいただいた「きっと出口はあるはずです!」の言葉に教職員は励まされました。今また、子ども達の体だけでなく心にも栄養を届けてくださった高野先生、素敵なお本をありがとうございました。

